

事業のタネシート

活動地域・団体名：神石高原町・ツネイシグリーンエナジー株式会社

事業名称 1：副産物である排熱の有効利用による農業事業の検討

あらすじ

・現在、神石高原町内で当社が検討している木質バイオマス発電事業から発生する排熱の活用を検討している。
 ・発生する熱を利用し、熱帯の高付加価値の果実栽培や一定の温度保持で栽培可能な作物の栽培等での活用を検討する。

ストーリー

町では、農業などの第1次産業が域外から外貨を獲得する重要な産業となっており、発生する熱を利用し、温暖な地域で栽培される高単価の果実などの栽培や一定の温度保持が必要な作物栽培へと活用し、耕作放棄地の活用促進や農業産業の活性化、雇用や新規事業者の創出などにつなげる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック	
①ありたい未来	地域の資源（森林、自然他）を活用した多様な経済循環のある地域（年齢問わず関われる多様な事業、農業での生活出来る町他）。	・事業を実施する主体及び関係者の事業スキームの整理 ・熱源と一定程度近接した場所での検討が必要（全町内が対象とはならない） ・地元プレーヤーとの調整他	
②課題	町外からの外貨を稼ぐ産業に限られている（農業、林業）、働く職種が少ない、農業の担い手・後継者の確保等。		
③なぜこの事業をやるのか（Why）	農業は域外から資金を稼いでいる重要な産業であり、新たな産業をゼロから創造するのではなく、強みや資源を有効に活用することで新たな雇用・経済循環を		
④地域資源	木質バイオマスから発生する排熱、山林（町面積の8割）、遊休土地（耕作放棄地）、豊かな自然環境等。		
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	熱の温室ハウスへの利用（トマト・フルーツ）、価値の高い作物の栽培、ドライ食品への熱源等。		
⑥担い手（Who）	域内の農業関係者、移住者、その他事業者他。		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	木質バイオマス発電事業から発生する副産物である熱を、域内農業の活性化による新たな経済循環等につなげる。		・熱利用に関するノウハウ ・農業関連ノウハウ 他
⑧事業で生じる成果	域外から町内への資金流入、耕作放棄地の活用、農業従事者の増加、農業従事者の所得増加等。		

事業名称 2 : 副産物であるバイオ炭、木酢液を活用した山林及び農地等の土壌改良事業の検討		
あらすじ		
<p>・現在、神石高原町内で当社が検討している木質バイオマス発電事業から発生するバイオ炭、木酢液の活用を検討している。</p> <p>・副産物として発生するバイオ炭については、土壌改善への活用、木酢液については自然由来の虫害予防剤としての活用などを検討する。</p>		
ストーリー		
<p>町では、農業などの第1次産業が域外から外貨を獲得する重要な産業となっており、発生するバイオ炭を粘着性の高い土壌の改良剤として活用し農業における生産性の向上等に活用することを目指す。併せて山林の土壌改善などへの有効活用策についても検討する。木酢液については、自然由来の虫害予防の活用策を検討し無駄のない資源循環を目指す。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	自然資源の活用機会増加と連動した経済循環の活性化、美しい里山風景の維持。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施する主体及び関係者の事業スキームの整理 ・バイオ炭・木酢液の成分分析等の測定の必要性 ・地元プレーヤーとの調整他
②課題	粘着性の土壌（水はけがよくない）、未利用林の増加（手入れ不足の山林増加）、集落の景観保全に係る担い手不足、有害鳥獣が多い、	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	粘着性の土壌などへの課題に対して、バイオ炭等が有効な解決策となり得る可能性があることから資源の有効活用の観点から検討を行う。	
④地域資源	木質バイオマス発電から発生するバイオ炭・木酢液、山林（町面積の8割）、遊休土地（耕作放棄地）、豊かな自然環境等。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	バイオ炭の土壌改良剤としての活用、豊かな山林土壌の維持、木酢液の虫害予防への活用等。	
⑥担い手（Who）	域内の農業関係者、移住者、その他事業者他。	
⑦事業で生じる循環	町内産のチップを活用し、そこから生まれた副産物を地域の農業や山林の土壌改善等にも活用する循環モデル。	
⑧事業で生じる成果	田・畑・山林等の維持、美しい里山の回復、空き家と農地と山への新しい人の流入、農業の活性化による遊休地の減少、農業事業者の所得増加。	
		課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
		<ul style="list-style-type: none"> ・農地・山林保全等に関する知見 ・農業関連ノウハウ等

事業名称 3 : 多くの方が関わられる木質バイオマス発電事業の実現 (チップ加工他派生事業等)		
あらすじ		
<p>・町内の未利用林を活用することで、町内資源の有効活用によるバイオマス発電事業を推進するとともに、派生事業を含めた事業自体への地元プレーヤーの参画による地域一体となった事業の構築を目指す。</p> <p>・併せて、資源活用の進展を通じて、町内の様々な課題の解決を目指す。</p>		
ストーリー		
<p>・町内産のチップを活用したバイオマス発電事業により、町内の林産資源の有効活用と共に、一定の需要創出による山林の景観の改善などが進み豊かな里山の風景の回復などの波及的な効果を期待する。併せて、バイオマス発電事業に関して地域の多様なプレーヤーと連携することで地域一体となった管理面も含めた派生事業推進を検討する。</p> <p>・長期的には、チップ需要増などを起点とした山林の活用機会が増加することで、手入れの行き届いた山林や林業従事者の増加、林業事業の活性化などにつながることを期待する。町外企業へのチップ販売なども検討の視野に入れていく。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	積極的な活用を通じた林業事業の活性化と共に、美しい里山風景の回復など地域住民が安心して暮らせる地域。	<p>・地域内での連携事業者の確保</p> <p>・事業スキームの検討</p> <p>・林業従事者の確保、林業事業者の体制整備 (一定の長期需要が見込める状況でなければ、事業者側での雇用の確保・設備投資・資源投下等が難しい) 等</p> <p>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</p> <p>・地域の林業事業者</p> <p>・地域のその他事業者、商工団体等</p>
②課題	手入れ不足の山林の増加、林業事業者の減少、有害鳥獣被害等。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	豊かな山林は資源であると同時に、管理が十分でなければ災害の被害抑止や有害鳥獣被害の防止など豊かな里山の維持の上では課題となる。	
④地域資源	山林 (町面積の8割)、豊かな自然環境。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	バイオマス発電事業を起点とした管理面も含め多様な地元連携事業の創出、活用を通じた自然環境保全の促進、町内産チップの域外への販売。	
⑥担い手 (Who)	地域の事業者、林業事業者、その他事業者他。	
⑦事業で生じる循環	チップ需要創出による林業事業の活性化、更なる木材需要の創出、域外へのチップ販売、活用の促進による森林等の自然環境の改善。	
⑧事業で生じる成果	林業従事者の増加・所得増加、関連産業の創出による域内事業者の売上増加、未利用林等の活用促進、美しい里山の回復、有害鳥獣被害の防止等。	